「雨風食堂」

村上 豊

永江朗著『広辞苑の中の拙り出し日本語』（花鳥風月編）「まえがき」に「雨風」文字通りに雨と風ですが「酒好きでありながら菓子などを好むこと」という意味もあります。

「雨風食堂」という言葉もあって、これは「菓子、飯、酒、なんでも食べさせる食堂」のこと、大阪などでいうそうです。

さすが食い倒れの街。

と書いてある。「雨風」は両刀使いのことなのか、ミヤモトムサシのことなのか。

それはさておき、少し以前、ＮＨＫテレビシブ五時で、山形県は洋菓子の購入日本一というのを放映したが、何かにつけて（呑み会の後でも）ケーキを食べるという。

画面は河原で芋煮会（その発祥は仙台という）で乾杯と缶ビールを上げ楽しい雰囲気。

酣の宴もそろそろお開きという頃に

でた！。ケーキが。皆いろいろ出し合って、ニコニコと食べている。

「雨風」している。

和菓子屋にもシュークリームがあると。それでは酒場でも置いているのでないか。

閉館する以前の話だが、本間美術館を観ての帰路、和菓子屋で銘菓を土産に買ったが、シュークリームが確かにあった。

蔵王山を相(あひ)へだて生(あ)れし絆(きづな)思ふ斎藤茂吉　佐藤佐太郎　　秋葉　四郎

雪陰す雪もたちまち陰さるるふぶく蔵王の真白の宇宙　　伊藤　一彦

みちのくの岩座(くら)の王なる蔵王よ耀く盲(めしひ)となりて吹雪(ふぶ)きつ　　葛原　妙子

ものおもふひとひらの湖(うみ)をたたへたる蔵王は千年なにもせぬなり　　川野　里子

蔵王の山鳥海の山月の山　みちのくの山は血潮のごとし　　山中智恵子

宮城、山形の県境の歌から出発
酒と甘いものを

ウイスキーは割らずに呷(あお)れ人は抱け月光は八月の裸身のために　　佐佐木幸綱

與二郎(こうじろ)に酒を沸かしてやれやとふそのこゑさへすでに衰へましぬ　　小野　與二

酒飲めば食ふものとする章魚の足そのぶつぎりを幼子の待つ　　千代　国一

ひといきにビールのむとき食道の衝撃にも老いて弱くなりたり　　佐藤佐太郎

逝く春を森永ミルクチョコレート箱が落ちてる　泣いているのだ　　岡部桂一郎

白妙(しろたへ)のもちひをつつむかしは葉の香(か)をなつかしみくへど飽(あ)かぬも　　正岡　子規

デパートにて柴又の草団子買ふ四月四日の午後おそく来て　　山下秀之助

食減りしわれにすすむる一房のこのマスカットかなしみの房　　坪野　　哲

罐のなかにせんべいのふれあふ音ひびき生きもののひそむがごとく悲し

山田　あき

洋菓子の歌は探せなかった。

マロングラッセ。シュークリームなど七音に納まる名前もあるが、ケーキについている名前は納まりにくく三十一音からはみ出ることと、クリームを美的に食べることがむずかしい。思索的に未熟なのかも知れない。

女童(めわらは)はボーイフレンド欲しといひポップコーンを一つ食べたり　　馬場あき子

するだろう　ぼくをすてたるものがたりマシュマロくちにほおばりながら

村木　道彦

桜餅　饅頭　煎餅　柏餅　みたらし団子　どらやき　羊羹

和菓子の名を並べただけで三十一音になる。

（筆者は「橄欖主要同人」）